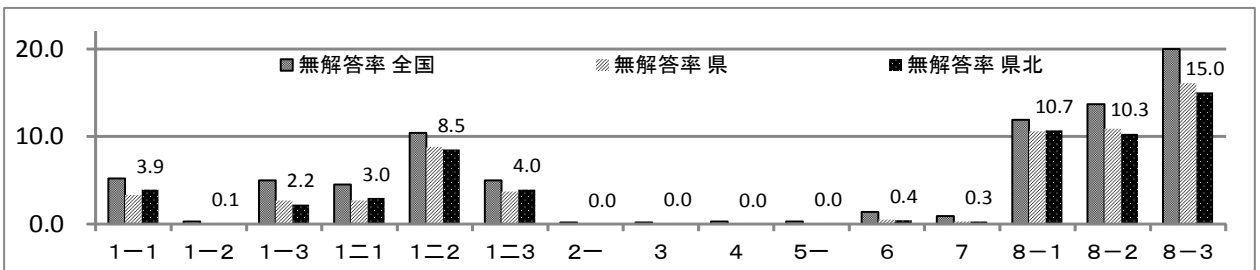
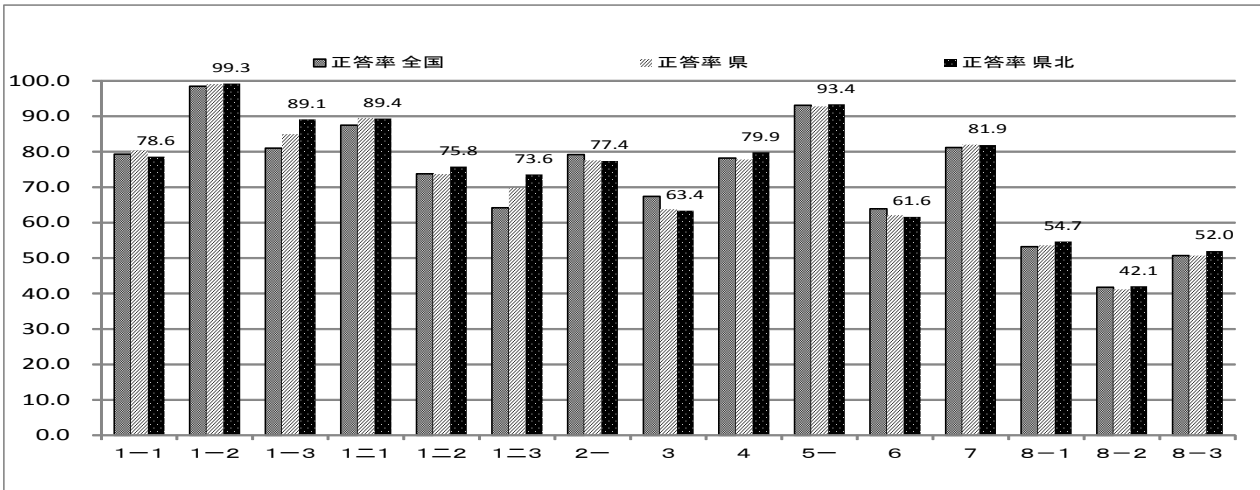


平成28年度全国学力・学習状況調査結果を授業改善に生かすために

国語（小学校）

県北教育事務所

〔小学校国語A〕 ※ 各設問ごとの正答率・無解答率（値は県北地区）



【結果】

- 漢字の読み書きについては、よく身につけている。①一1～①二3
- 目的に応じて、図と表を関連付けて読むことはできている。⑤
- 登場人物の性格や気持ちの変化などを、叙述を基にして捉えることに課題がある。⑥
- ローマ字の読み書きに課題がある。⑧
- 目的や意図に応じて、書き手の表現の仕方をよりよくするために助言し合うことに課題がある。③

平成28年度全国学力・学習状況調査 報告書の解答類型

※ () は報告書ページ

設問③は、書き手の表現の仕方をよりよくするために助言することができるかどうかをみる問題であるが、選択肢5の「一文が長くて内容が伝わりにくいので、いくつかの文に分けた方がよい。」を選ばず誤答となっている割合が高い。(P32)

	③	1 (正答)	2	3
全国		67.6	14.8	8.7
県		63.8	16.1	10.4
県北		63.4	16.9	10.3

～ 弱点を改善する指導 ～

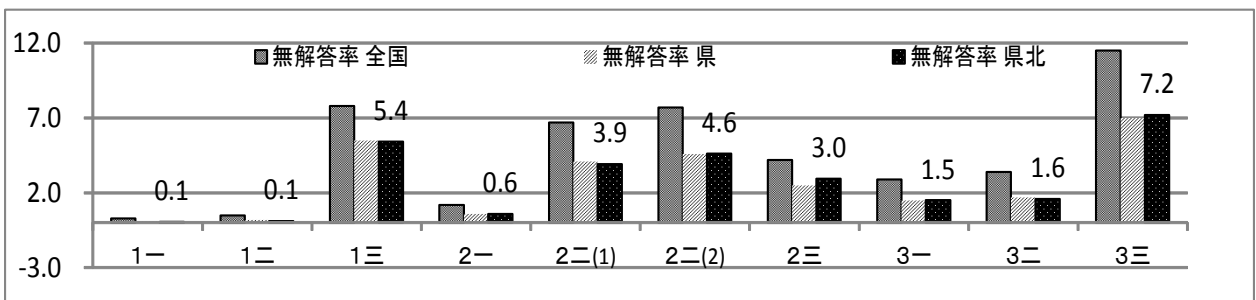
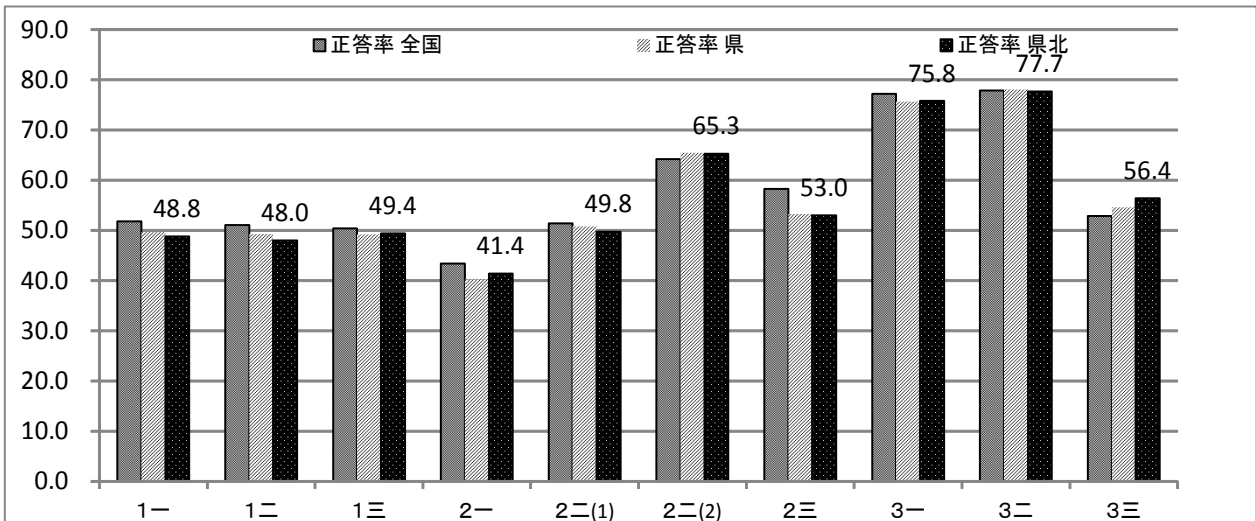
修正すべき内容とともに、どのように書き換えればよいのかを具体的に指摘できるようにする。

【改善策】

例えば、「ある人物になったつもりで」（東書4年下）において、考えの明確さや書き方の巧みさなどについて意見を述べ合うことを学習した上で、「一つの言葉から」「伝えよう委員会活動」（東書5年）において、次のような視点をもって助言できるように指導することが考えられる。

- ア 書き手の考えが明確に表れているか
- イ 段落相互の関係などが明確であるか
- ウ 表現の曖昧さはないか
- エ 読み手が理解しやすいように更に改善できる部分はないか

[小学校国語 B] ※ 各設問ごとの正答率・無解答率（値は県北地区）



【結果】

- 目的に応じて複数の本や文章などを選び、比べて読むなど効果的な読み方を工夫することは身につけている。**3一・二**
- インタビューの目的に応じて質問内容を整理すること、質問の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することに課題がある。**1一～三**
- **グラフを基に、分かったことを的確に書くことに課題がある。2一・二(1)**

平成28年度全国学力・学習状況調査 報告書の解答類型 ※ () は報告書ページ

設問**2一**は、グラフを基に、分かったことを的確に書くことができるかどうかをみる問題であるが、選択肢の内容を読み取ることができずに「1」と解答している割合が30%近くになっている。(P62)

	1	2	3 (正答)	4
2一 全国	29.7	16.2	43.5	9.3
2一 県	31.1	18.9	40.2	9.2
2一 県北	29.8	19.0	41.4	9.2

～ 弱点を改善する指導 ～

書き表したい事実にあわせて図表やグラフを考え、分かったことを的確に書けるようにする。

【改善策】

例えば、「資料を生かして考えたことを書こう」(東書5年)、「資料を生かして呼びかけよう」(東書6年)において、次のような項目を指導することが考えられる。

- ア 情報を正しく読み取り、必要な情報について適切な言葉を用いて記述するために、他教科(社会科や算数科等)で学習した図表やグラフの読み方を確認する。
 - イ グラフの全体的な特徴や変化の特徴を捉える学習、複数の図表やグラフを比較したり関係付けたりする学習を通して、適切な図表やグラフを選択したり、それと関連付けた文章を書いたりすることができるように指導する。
 - ウ 読み取った情報を相手に分かりやすく伝えるための言葉を選択することも重要であるので、様々な言葉の説明による違いや効果を比べ、目的に応じて使い分けることができるように指導する。
- ※「おおよそ、大抵が」「上回る、下回る」等